




論文審査結果の要旨

論文提出者	花 田 裕 紀	
論文審査委員	主 査	稲 井 哲一朗 
	副 査	沢 禎 彦 
	副 査	大 関 悟 
論文題目	Dynamic changes in cell-surface expression of mannose in the oral epithelium during the development of graft-versus-host disease of the oral mucosa in rats	
<p>(論文審査結果の要旨)</p> <p>口腔粘膜は移植片対宿主病 (GVHD) の標的臓器の一つである。GVHD では、口腔粘膜上皮細胞表面で ICAM-1 の発現が亢進し、intercellular adhesion molecule-1 (ICAM-1)/lymphocyte function-associated antigen-1 (LFA-1) を介した細胞接着機構によりエフェクター細胞である細胞傷害性 T 細胞が口腔粘膜上皮に集積すると考えられている。本研究では、LEW ラットの脾細胞を LBNF₁ ラットに注射して作製した全身性 GVHD モデルを用いて以下の結果を得た。GVHD により口腔粘膜上皮の細胞膜表面でのマンノースの発現が亢進すること、このマンノース (Man) がマンノース結合蛋白 (MBP) を発現する細胞傷害性 T 細胞に対して走化性を示すこと、さらに、MBP/Man を介した細胞接着機構により細胞傷害性 T 細胞が口腔粘膜上皮に集積することを明らかにした。</p> <p>申請者は、予備審査とその後の討論で研究の背景、意義、方法を十分に説明し、結果と考察に対する質疑に適切に回答したことから、本研究全般を正確に理解していると判断された。本研究は、GVHD における口腔粘膜上皮破壊の機序の一部として MBP/Man を介した細胞接着機構の関与を新たに見出し、今後の治療法確立のための基盤となることが期待され、学位論文として価値があると評価された。</p>		